

輝く女性の 私i s m

児童福祉活動をテーマに活動する
シンガーソングライター、保育園経営、
講師、作家

石田 志芳さん(二)



子どもが被害者、加害者になる事件が後を絶ちません。「自分の子を真っ直ぐ育てても周りが殺人者なら意味がない」と、悩める子どもたちや親に自分なりのメッセージを送ろうと立ち上がった一人のシンガー。親からの被虐待、イジメ、人格障害、自殺未遂、離婚、人種差別。その全てを克服して歌い続ける彼女からのメッセージで、変わり始めた子どもたちがいます。

暴力やイジメと闘い 悲鳴をあげた心

リとツツコミ。「話すとおっさんみたいと言われる」と言いながら、ノーマイクの顔をくしゃくしゃにして笑います。

いい意味で裏切られた
歌手のイメージ
というのが、石田さんの
写真を見たときの第一印象。
会って話すと、「ど

整った顔立ちに明るい
笑顔、さすが元女優のシ
ンガーソングライターだ
関西弁にテンポのいいノ
きないほど波乱の人生を

これまでの石田さんは、
その明るさからは想像で
きないほど波乱の人生を

子どもがいたから チャリティー活動へ

歩いてきました。暴力を振るう父親と、仕事に追われる母親のもとで、誰にも甘えられなかった子どものころ。イジメっ子に立ち向かって逆にイジメられた学生時代。「正しいことを正しいと言ったら敵が増えてしまった」と石田さん。同じような理由で職場でもイジメと闘っていたそうです。働きながら、歌手になることを目標に芸能活動もしていました。そんな中、好きな人の子どもを妊娠、そして結婚。その後その人から受けた暴力の末、離婚。そんな日々心が悲鳴をあげ、精神障害になり、自殺未遂を繰り返すようになりました。

そんな生活から立ち直

石田さんの子育て 話し合う、命を守る

れたのは「やっぱり子どもがいたから。それに尽きる」と石田さん。昔からなぜか子どもに対する思いは人一倍強く、学生時代からまだ見ぬ子どものためにお金を貯めていたほど。児童福祉をテーマにしたチャリティーライブやイベントに力を入れるようになったのも「大切な子どもをまっすぐ育てたい。そのためには周りが殺人者では困る」との思いから。「究極の親バカなんです」と笑いま

チャリティーライブやイベント、著書の執筆に
保育園経営。多忙な石田
さんの子育ての基本は、
徹底的に話しあうこと。

娘が一言「死にたい」と
言うと、その理由を聞き、

悩める子どもに響く 真つすくな言葉

それから2年間毎日「お前が生まれるからママが生きてるんや」と話し続けたそうです。また「娘は自分の命をかけて守る」、「どんな仕事よりも娘が優先」と真剣な表情で言う石田さん。ここまではっきりと言いつけるのは、寂しかった子どものころの経験と、何度も命を落としかけた経験から、「子どもが生きてそばにいないことが当たり前ではない」という思いが強いからだった。

今までの人生経験や児童福祉についての講演活動も積極的に行う石田さん。講演を聴いて勇気づけられた子どもたちが、イジメと闘うために動き

出したこともあったそうです。石田さんの言葉を

求めて、個人的に SOS を送ってくる子どももめずらしくありません。取材中にも、近くに住む子どもたちが何人も石田さんの保育園をのぞき、手を振って帰っていきました。「子どもは判断基準が白か黒(正しいか正しくない)かしかない。自分も同じ。単純なんです」と石田さん。悪いことを見ると黙っていられず、正しいと思ったことを真面目からぶつける。そのことで苦しむことも多かった人生。そんな石田さんの真つすくな言葉と歌に今、子どもたちが救われています。

童福祉についての講演活動も積極的に行う石田さん。講演を聴いて勇気づけられた子どもたちが、イジメと闘うために動き

出したこともあったそうです。石田さんの言葉を

著書
「飛べなくなった
子どもたち」
(1,260円)を
同友館より10月に出版